



1 スクール・ミッションとスクール・ポリシー

スクール・ミッション

新しい時代を担う人間性豊かな生徒を育成するために、わかりやすい学習指導、規範意識の醸成、キャリア教育の推進等の教育活動により、学んだ知識を活用し自ら考えて行動する人材、相手の気持ちを理解できる優しさや思いやりのある感性豊かな人材、社会の一員としての自覚を持ち社会に貢献できる人材を育成します。

スクール・ポリシー

〈グラデュエーション・ポリシー〉

社会の一員として、学んだ知識を有効に活用しながら自ら考えて行動し、自信と誇りをもって社会に貢献できる人間

〈カリキュラム・ポリシー〉

- ・基礎学力の定着を重視した授業、習熟度別授業・少人数指導授業、多彩な選択科目、アドバンストクラスで標準的・発展的学習などを通して、進学から就職まで多様な進路希望に対応
- ・キャリア教育による職業観・勤労観の育成、一人一人の3年間の進路カルテによる指導、外部講師を活用したガイダンスなどを通して、社会人としての基礎力の習得

〈アドミッション・ポリシー〉

- ・社会の一員としての自覚をもち、将来の目標をもって高校生活を送ることができる生徒
- ・本校の生活指導上のルールやマナー、授業規律を守り、学習活動に真剣に取り組み、学力向上を目指すとともに、部活動・委員会活動・学校行事等に意欲的に取り組める生徒

2 中期的目標と方策

スクール・ミッションを踏まえ青井高校を名実ともに飛躍させる。

方策として、「青井フィロソフィ」の概念に基づき、「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本とした生活指導を徹底し、規範意識を醸成することを軸に、基礎・基本を重視した分かりやすい学習指導、文化・スポーツ活動や学校行事の活性化を図る。また、キャリア教育を重視するとともにアドバンストクラスの指導態勢を充実させる。これらの教育活動を通し、スクール・ミッションで示した人材を育成する。

目標達成のため、都立高校で一番仲の良い教職員集団を目指して結束力を高めていく。

青井フィロソフィ 1 自信と誇りある生徒の育成 2 キャリア教育で未来を拓く

(1) 組織的な学校運営

- ア 全教職員による課題の共有と、課題解決に向けた協力体制の強化
- イ 若手教職員育成のための組織的支援体制の構築
- ウ 「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画」に基づく特別支援教育の推進
- エ 企画調整会議、教科会の充実
- オ 学校運営連絡協議会の評価を活かした学校運営の改善
- カ 服務規律の徹底
- キ 生徒の心に響く指導による信頼関係の構築
- ク S I P (Scientific Inquiry Program) 拠点校としての理数教育の充実
- ケ 効率的な校務運営の構築とライフ・ワーク・バランスの推進

(2) 学習指導の充実

- ア 基礎学力を定着させるための指導力向上
- イ 落ち着いた学習環境の維持を目的とした授業規律の徹底
- ウ 各教科が年間指導計画、教育内容、指導方法等を分析した上での組織的改善
- エ 授業時数の確保と、発展的並びに補足的な補講の実施
- オ 豊かな感性と思考力の育成を図ることを目的とした読書活動の推進

(3) 希望進路の実現

- ア 希望進路の実現のため、生徒が主体的に取り組める指導体制の構築
- イ 正しい勤労観、職業観を育成するためのキャリア教育等の充実
- ウ 3年間を見通した進路指導計画に基づく組織的、系統的な指導の充実及び学期毎の点検を踏まえた指導計画の改善

(4) 生活指導の徹底

- ア 「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉に、挨拶の励行、遅刻指導、身だしなみ指導、頭髪指導、化粧禁止、授業規律指導等を徹底
- イ 規範意識並びに社会に奉仕する態度や他人を思いやる心の育成
- ウ いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底
- エ 特別支援教育の理解、啓発の推進

(5) 特別活動・部活動の推進

- ア 学校行事、ホームルーム活動、部活動への積極的な参加推進
- イ 特別活動、部活動を通じた帰属意識の醸成、良好な人間関係の構築及び自ら心身を鍛える態度の涵養
- ウ 生徒が自信と誇りをもって歌えるような校歌の指導
- エ 全ての部活動が地域の行事、ボランティア等に参加する「一部一貢献」の実施

(6) 安全教育・環境美化・健康指導の推進

- ア 生命尊重の視点に立った安全教育、防災教育の徹底
- イ 組織的な教育相談体制の確立及び個々の教職員のカウンセリングスキルの向上
- ウ 生命に関わる事故の徹底した未然防止
- エ 基本的生活習慣の確立と健康保持の自覚促進
- オ 教室を始め、校舎・施設を大切に使う姿勢を育むとともに公共の場をきれいに保つ清掃活動、環境美化活動の促進

(7) 募集対策、広報活動の強化と地域への貢献

- ア 本校の特色である「いつか輝く 今を始めよう」、「自信と誇りある生徒の育成」、「キャリア教育で未来を拓く」について中学生とその保護者への理解と浸透
- イ 生徒を活用した募集、広報活動の推進
- ウ ホームページ、SNS等の積極的な活用
- エ 近隣小中学との交流、学校施設開放事業、地域の災害時の避難所運営訓練や美化活動、地域行事への参加等への積極的な参加による地域貢献の推進

(8) 経営企画室の学校経営参画

- ア 学校経営計画に基づく自律経営推進予算の適切な執行
- イ 施設設備の保守点検及び改善による生徒の安全確保
- ウ 業務管理表等の活用による業務の進捗管理
- エ 教員との連携強化と学校運営に対する適切なサポート

3 今年度の取組目標と方策

(1) 組織的な学校運営 【重点目標】 中途退学者の減少

- ア 一人一人に寄り添った指導を充実させ、学力不振、学習意欲の低下、学校不適應等を理由とする退学者を減少させる。
- イ 広報活動等を通し、本校の指導方針、生徒の実態等を中学生等に正確に知らせることで、入学者のミスマッチを防ぐ。
- ウ 相互授業観察、研究授業、生活指導の事例研究等を中心にした校内研修を充実させ、授業改善、生徒への適切な対応等、教員の資質向上を図る。
- エ 青井高等学校いじめ防止基本方針に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、生徒が安心して学校生活を送れるようにする
- オ カウンセリング委員会を中心に、都立学校「自立支援チーム」と連携を図り、きめ細かなケアを心がけて中途退学者を減少させる。
- カ S I P 拠点校としての予算を活用して理数教育に係る生徒の興味・関心を引き出す取組を実施する。
- キ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」の理念に基づき、体力の向上を図る取組及び部活動の推進を図る校内体制を整備し、体力の向上に努める。
- ク 管理職が率先してライフ・ワーク・バランスを推進するとともに仕事の効率化に努め、教職員の仕事と家庭の両立を応援する。

(2) 学習指導の充実 【重点目標】 基礎学力の定着

- ア 各教科がスクール・ポリシーを踏まえ、基礎学力の定着を図る。また、教員相互の授業参観（年2回以上）、研究授業、O J T の充実を図り、学校の授業力の向上を図る。そのために、教科会を年間スケジュールに沿って開催し、教科指導計画、習熟度別授業、少人数授業、生徒の学習状況を評価検証し教科指導力の向上に努める。
- イ 「青井の授業規律」を徹底し、授業規律を確保する。授業者はチャイムに始まりチャイムに終わる授業を徹底する。
- ウ アドバンストクラスにおいては各教科で指導計画の内容を十分に練り、進学・医療系専門学校・公務員試験に対応できる標準的な学習内容や問題演習を行う。なお、評価は定期考査や日頃の学習状況等を他のクラスと調整し、有利不利が生じないよう総合的に判断する。
- エ 全学年・全クラスで朝学習を実施し、学習習慣の定着を図る。
- オ 習熟度別授業や少人数授業等により生徒一人一人の学力に応じたきめ細かな授業を展開する。
- カ 発達障害を含む障害のある生徒を積極的に支援するために、相談態勢の充実等、必要に応じて教育環境を整備する。
- キ 到達度テストから理解度を把握するなどして、つまずきの克服を目指した分かりやすく面白授業を展開する。
- ク 授業では毎回身に付けるべき目標を示すとともに、振り返りの時間も適宜設け、生徒のモチベーションを向上させる。
- ケ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業を常に意識し、改善に努める。
- コ 全教室に設置したスクールタイマーや一人一台端末を踏まえた I C T の活用等により、生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の定着を図る。
- サ 令和5、6年度「エンジョイスポーツプロジェクト」の指定校として、関係機関と連携を図りながら、保健体育の授業等を通し、個に応じて、運動やスポーツの多様な楽しみ方が学べる指導を展開する。

(3) 希望進路の実現 【重点目標】 第一志望の進路の実現

- ア 「キャリアデザイン I ・ II ・ III」、各教科、学校行事、部活動を通して、キャリア教育を推進し、「社会人基礎力」を身に付け、「キャリア教育で未来を拓く」を実践する。このため、進路指導部にキャリア担当を置き学年との連携を強化する。保育実習等の就業体験の充実を図り、

社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育む。

- イ 都立学校自立支援チーム、足立区就労支援課等と連携し、就職希望者や進路未決定者への支援を行い、進路実現を図る。
- ウ 卒業生や外部講師による進路ガイダンス等の内容を充実させ、社会人として必要な知識・マナーや礼儀等を生徒に確実に習得・定着させる。
- エ 進路指導部と学年が連携し、作文、論文、面接指導を組織的、計画的に、きめ細かく行うことを通して、論理的に考え、質問に正対して答えられる力を育成する。
- オ 生徒一人一人の進路指導の校内サーバーシステム「進路カルテ」「受験報告カード」「青井ポートフォリオ」を有効に活用していく。

(4) 生活指導の徹底 【重点目標】合理的で社会が認める適切な生活指導の実施

- ア 「時を守り、場を清め、礼を正す※」の実践と「青井の授業規律」に基づき、学校生活のルール、社会生活のマナー遵守を指導する。全教員がぶれない指導態勢を確立し同じ姿勢での生活指導を徹底する。
 - ※「時を守り」遅刻指導（時間厳守）、「場を清め」頭髪指導・身だしなみ指導（制服をきちんと着ることと、化粧、爪への装飾、ピアス等の禁止指導）、「礼を正す」挨拶の励行、登下校マナー 授業マナー 学校施設利用マナー
- イ 「東京都立青井高等学校SNS学校ルール」に基づき、家庭と連携し、教科及び特別活動の指導を通して、スマートフォンや携帯電話等を社会人として適切に利用できるよう育成する。
- ウ 生徒が安全な環境の中で学校生活が送れるよう、当番表による校門警戒、巡回等全教職員が共通理解・共通認識をもって組織的に安全管理にあたる。
- エ 地域の警察署と連携したセーフティ教室等を実施し、登下校を中心とした交通安全指導、携帯電話等の被害や犯罪防止、窃盗等の犯罪防止、薬物乱用防止指導を行う。

(5) 特別活動・部活動の推進 【重点目標】行事の満足度及び部活動加入率の向上

- ア ホームルーム活動を充実させ、学校行事・生徒会活動等に生徒・教職員が一体となって自主的・意欲的に取り組むことで、生徒の学校への帰属意識を高め、安定・充実した学校生活を送らせる。
- イ 校章をデザインした徽章を全生徒が着用することにより帰属意識を高めていく。学校行事や集会の折に校歌を斉唱し、青井高校の生徒であることの誇りをもたせる。
- ウ 部活動への加入を促し、達成感を味わわせるとともに良好な人間関係づくりを推進する。
- エ 全ての部活動が地域の行事、地域貢献活動等に参加する「一部一貢献」を実施する。
- オ 学校行事、運動部活動等を通し、運動する機会を増やすとともにスポーツの楽しさを体感させる。

(6) 安全教育・環境美化・健康指導の推進

【重点目標】生命に関わる重大な事故、いじめ、不登校等の未然防止

- ア 避難訓練、防災訓練、避難所運営訓練における防災活動支援隊等による住民誘導を通して、災害発生時に、自助・共助・公助の適切な行動が取れるよう指導する。
- イ 薬物乱用防止、喫煙防止、性教育、食育、生命尊重等、様々な安全教室を実施し、健康的な生活習慣の確立及び健全育成を推進する。
- ウ スクールカウンセラーによる1年生全員との面接を行い、生徒・保護者が、気軽にスクールカウンセラーと相談できる態勢を整えることでメンタルケアを充実させる。
- エ カウンセリング委員会を中心として、スクールカウンセラーや外部講師の活用を図り、教職員のカウンセリングスキルを向上させるとともに組織的な教育相談体制を確立し、生徒の悩みの解消、生命に関わる重大な事故、いじめ、不登校等の未然防止を図る。
- オ 特別支援教育に対する研修会等を開催し、生徒理解を深めると同時に生徒の実態に応じて適切な対応ができるようにし、一人一人の生徒の伸長を図る。
- カ 教室をはじめとした清掃活動を徹底して校舎をきれいに保つとともに、施設を大切に使う姿

勢を育む。

(7) 募集対策、広報活動の強化と地域への貢献 【重点目標】定員割れ状態の解消

- ア 合同説明会、学校見学会、学校説明会、中学校や塾訪問等を充実させるとともに、ホームページの更新と内容の充実に努める。
- イ 教務部、募集対策委員会を中心に学校内外の募集活動計画を策定して組織的に推進する。
- ウ 募集、広報活動の一環として生徒の活動を紹介したり、生徒自身の声を発信したりするなど、生徒を積極的に活用する。
- エ 地域清掃等の地域貢献活動をはじめ、インターンシップ、近隣の幼稚園、保育園、福祉施設等での奉仕活動、避難所運営訓練への参加等を通じて、地域社会との連携、交流を深める。
- オ 小学生向けの公開講座を開講等、本校の教育機能と施設を地域・社会に提供することを通して都民の学習、スポーツ活動の振興に貢献する。

(8) 経営企画室の学校経営参画 【重点目標】自律経営推進予算の適切な執行

- ア 爽やかで誠実、好印象の接遇を目指すとともに、学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画機能を充実させる。
- イ 事務担当者に経営企画室長へ業務の進捗状況を報告させ、進行管理を適切に進める。
- ウ 校内の施設の安全管理及び修繕を積極的に推進する。

4 数値目標

	項目	数値目標	前年度実績
1	入学者選抜分割前後期応募倍率	前期 1.0 倍 後期 1.0 倍	前期 0.69 倍 後期 0.72 倍
2	進路決定率	95%	88.6%
3	退学者数	15 名	40 名
4	生徒事故件数 (管理内)	0 件	3 件
5	部活動加入率	50%	43.8%
6	ホームページ更新回数	100 回	92 回
7	年間遅刻延べ回数	5000 回	5641 回
8	学校生活充実度肯定回答 (生徒)	85%	83.9%
9	学習指導満足度肯定回答 (生徒・保護者)	90%	85.7%
10	生活指導満足度肯定回数 (生徒・保護者)	90%	86.2%
11	学校行事満足度肯定回答 (生徒)	85%	82.6%
12	部活動満足度肯定回答 (生徒)	80%	73.6%
13	いじめ対策への肯定回答 (生徒)	90%	81.6%
14	進路指導満足度肯定回答 (生徒・保護者)	95%	90.2%
15	第3学年当初の第一希望の進路先実現率	90%	88.6
16	学校説明会等参加者数 (組数)	200 組	160 組
17	ボランティア活動への参加生徒数 (延べ数)	100 名	46 名
18	一部一貢献達成率	80%	実施できず
19	勤務時間外の在校時間が月間 45 時間を超える教員の年間延べ人数	100 名	150 名